

## 新ごみ処理場建設に係る進捗状況報告

### 1 新ごみ処理場の基本条件

#### (1) 整備方針

##### ア 循環型社会を推進する施設

- ・ 3Rを推進したうえで適正処理を行い、処理で発生する熱や灰等を有効活用する。
- ・ 環境負荷低減や公害防止等、環境に十分に配慮した設備を整える。

##### イ 市民が身近で安全・安心を感じられる施設

- ・ 市民生活に密接した利便性の高い施設
- ・ 新潟県中越沖地震を教訓とした災害に強い強靱な施設

##### ウ 高効率なエネルギー回収を可能とする施設

- ・ 柏崎地域エネルギービジョンの実現に向けて、エネルギーの地産地消に留まらず、将来の地産他消を見据えたベース電源のひとつとする。

##### エ ふるさとの環境を守る施設

- ・ 児童・生徒をはじめ、循環型社会の推進や環境問題について学べる施設とする。
- ・ 温暖化対策や生物多様性の保全に対する意識啓発、不法投棄防止と環境美化の推進など、豊かな自然環境を維持・保全するための拠点とする。

##### オ 経済性に優れた施設

#### (2) 施設概要

区 分		新ごみ処理場	既存ごみ処理場
施設 規模	焼却施設	80 t / 日 (40 / 24 h × 2 炉)	160 t / 日 (80 / 24 h × 2 炉)
	粗大ごみ処理施設	6.7 t / 5 h	40.0 t / 5 h
処理対象物		燃やすごみ 燃やさないごみ 粗大ごみ ボランティア清掃ごみ 剪定枝・庭の草 災害廃棄物	燃やすごみ 燃やさないごみ 粗大ごみ
処理方式		ストーカ式	流動床式
事業方式		公設民営 (DBO※方式)	公設公営

※DBO (Design-Build-Operate) 方式 公共が資金調達し民間事業者に施設の設計・建設・運営を一体的に委託

### (3) 施設配置

クリーンセンターかしわざき敷地内

(し尿処理場、事務所棟、松波資源物リサイクルセンター等を解体した用地)



令和7(2025)年度～令和8(2026)年度



令和8(2026)年度～令和10(2028)年度

## 3 今後の事業予定

### (1) 事業者選定の準備

令和6(2024)年度の事業者選定に向け、要求水準書を始めとする必要な資料の作成をすすめております。

### (2) 廃棄物エネルギーの活用方法の検討

焼却で発生する熱エネルギー回収は、地域で広く活用が期待できる発電により行います。発電した電力の活用方針は、要求水準書に反映させるため今年度に決定します。

### (3) 資源物回収拠点設置方針の決定

新ごみ処理場建設のため、松波資源物リサイクルセンターは一旦閉鎖し、解体します。新たな資源物リサイクルセンターは、新ごみ処理場の稼働後、現在のごみ処理場を解体した跡地に建設する方針ですが、6年間程度は同地のリサイクルセンターが稼働できなくなる見込みのため、この間の資源物回収拠点の設置方針を検討し決定することとしています。

### (4) 建設スケジュール

令和8(2026)年度から令和10(2028)年度にかけて新ごみ処理場の建設をし、令和11(2029)年度より、新ごみ処理場を稼働する計画としています。

	R6年度 2024年度	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度～ 2029年度～
事業者選定	●					
既存ごみ処理場						
既存ごみ処理場						
主な既存施設・設備						
事務所棟						
計量器						
し尿処理場						
有価物ストックヤード						
資源物リサイクルセンター						
仮設施設・設備						
仮設事務所						
仮設計量棟						
仮設浄化槽						
新ごみ処理場						
新ごみ処理場						